

エンドユーザ主導型アプリケーション開発技法 における要求仕様定義プロセス

紺 田 直 幸[†] 岩 田 智 彰[†] 中 所 武 司[†]

近年、パソコンの普及と共に、業務の専門家が自ら情報システムを構築する必要性が高まっている。我々は、エンドユーザ主導型のアプリケーション開発技法として、ビジュアルツールとコンポーネントウェアをベースにした、モデリング&シミュレーション技法 M-base を研究している。本報告では、この研究アプローチを例題に適用することにより、要求仕様を定義する方法を検討する。

Enduser-Initiative Requirement Definition Process

NAOYUKI KONDA, TOMOAKI IWATA and TAKESHI CHUSHO

The number of end-users increases on the inside and outside of offices. This paper describes requirement definition process for enduser-initiative application development.

1. はじめに

我々は業務の専門家が自ら情報システムを作り、使い、そして管理保守を行うためのオブジェクト指向分散アプリケーション開発環境 M-base の実現を目指している。M-base による開発では、まず核になる部分を試作し、それを改良しながら実用システムに仕立て上げるプロトタイピングアプローチをとる。本報告では、エンドユーザである国際会議のプログラム委員長が情報処理に詳しい SE と相談しながら要求仕様の定義を行うことを想定し、共通問題²⁾に M-base のモデリングプロセスを適用した結果について述べる。

2. M-base による要求仕様定義プロセス概要

M-base を共通問題に適用したときの要求仕様の定義は、以下の手順で行われる。なお、今回は共通問題の前半 (a) のスケジュール決定から (e) の投稿者への受領メール発送までを対象とする。

- (1) 業務仕様の詳細化
対象業務を詳細化する。
- (2) ドメインモデルの作成
モデリングツールを用いて、「1 業務 1 オブジェクト」を原則としたドメインモデルを作成する。
- (3) ユーザインターフェースの作成

システムが自動生成した UI を確認し、必要ならば、UI 構築ツールを用いて修正を行う。

- (4) シミュレーション実行による検証
シミュレーションツールで動作を検証する。

3. 例題への適用結果

以下、M-base を共通問題に適用した結果を述べる。

(a) スケジュールの決定

開催日時を入力することにより、過去の同様の国際会議の経験的データから原案を自動的に生成する。プログラム委員長は、これを修正して、スケジュールの決定を行う。

(b) CFP の作成・配布

原本は、以下の 3 種類を用意する。

- (1) ホームページ掲載版 (HTML)
- (2) メーリングリスト利用版 (プレーンテキスト)
- (3) ポスター版 (A4 で 1 枚)

作業手順の効率を考慮して、上記の順に作成する。

(1) は、表示の雛形を用意し、各項目を順に入力することで作成可能とする。この部分はその専用ツールにまかせて、連携する方法をとる。

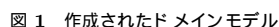
(2)(3) は、ホームページ掲載版から自動生成する。配布はいずれも電子的方法で行う。

(c) プログラム委員の選出、依頼、名簿作成

プログラム委員候補名簿とプログラム委員名簿作成のためのデータは、手作業で入力する。プログラム委員就任依頼は、できるだけ電子メールで行うが、E-mail

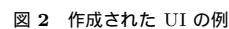
[†] 明治大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻情報科学系
Graduate School of Science and Technology, Major in
Sciences, Computer Science Course, Meiji University

メタファベースのモデリングを行い、業務分割、コンポーネント抽出、メソッド意味定義を行う。以下では、図1のドメインモデルに導入された9種類の業務コンポーネントの仕様(導入されたメソッド)を示す。



distribute 学会誌などへ CFP の掲載を依頼し、電子的方法で送付。任意の時点で再起動が可能である。配布先についての管理を行う。

スケジュール入力用の UI の例を図 2 に示す。カレンダーから学会開始日を選ぶと、残りの 5 つの日程を自動記入する。「編集…」ボタンを押すと、カレンダーが表示され、日付を変更できる。



- 1) 中所 武司, 岩田 智彰, 藤原 克哉, 紺田 直幸: エンドユーザ主導型アプリケーション開発技法における要求仕様定義プロセスの検討, 情報処理学会ソフトウェア工学研究会要求工学 WG、1998.10.
- 2) 要求工学 WG 共通問題、同上.
- 3) 中所 武司, 岩田 智彰, 紺田 直幸: {10/27, 11/19, 11/20} ゼミ内部資料、1998.